

非鉄金属

市原金属産業

輸入銅ブスバーの販売開始

常時100ト以上の在庫体制へ

中部地区大手非鉄流通の市原金属産業（名古屋市長・社長・市原玄樹氏）は10月をめどに輸入銅アスパー（銅帯）の在庫販売を開始する。国産材とのハイブリッド供給体制により、常時100ト以上の在庫を計画する。輸入銅アスパーの取り扱いにより、一部国産材の年内生産終了に伴う補充機能を果たすとともに、新規顧客獲得などシナジーの創出を狙う。

今春、銅・スバー国を年内に終了することもあり、市原金庫内最大手の伸銅メーカーが収益性の悪化など重電設備などインフラを理由に、生産・販売に使用される分、同社

扱いは、メーカーの拡充も視野に入れる。ヒモ付き、店売りに関係なく小ロット・多品種対応も可能。加えて、同社の強みの一つである配送機能を生かし、全国供給に向け必要に応じた物流体制を整える。

今後、営業スタッフは担当取引先や、これまでの納入実績の有無にとらわれない営業を展開。販売エリアを超えた連携体制を構築し、全社挙げての拡販活動に注力していく。

同社は黄銅棒をはじめとする伸銅品のほか、軽圧品、ステンレス製品や非鉄金属製品の加工品販売も手掛ける。中でも黄銅棒の販売シ

給こそ、流通としての最大の使命。社会貢献活動の観点から、必要としているところに必要なものを届けられるよう機能を発揮し、需要家の皆さまに寄与し続けたい。お困りことがあれば、是非当社へ



在庫を拡充する銅ブスバ―

の事業撤退が決定的になって以降、ユーザは新たな仕入れソースを確保する動きを活発化。他の国内メーカーでは生産能力を理由にすべての需要に対応しきれない状況が続いている。同社によると、新たな仕入れ先として、銅パイプの品質は国産材と同等水準。顧客の要望に応じてミルシートを供給する。従来の取り扱いは、超の広幅材もライオンアップ。将来は取り